

千葉県建築文化賞

第18回表彰作品集



2011年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成23年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、居住環境や建築文化に対する県民の意識を高め、潤いと安らぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的として平成6年度に創設されたものです。

第18回目となる今年度は、東日本大震災により本県においても多くの方々が被災された中で、例年を上回る108点の応募があり、千葉県建築文化賞選考委員会の厳正な審査により、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞3点が選定されました。

受賞作品は、いずれも良好な景観形成や建築文化の向上につながるとともに、千葉の魅力を高め、地域の活性化にも貢献する素晴らしい作品です。これらの建築物が地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に貢献するものと期待しております。

さて、今年度は、総合計画「輝け!ちば元気プラン」の実施計画の総仕上げの年です。「暮らし満足度日本一」の千葉を目指し、千葉県建築文化賞表彰制度をはじめ、「がんばろう!千葉」キャンペーンなどの諸施策を通じ、次の世代に向けてより一層光り輝く千葉県を築いてまいりますので、県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝を申し上げますとともに、受賞者並びに応募いただいた皆様の今後ますますの御活躍をお祈りしまして、あいさついたします。

平成24年3月

目次

千葉県建築文化賞について	1	Villa99 I期	7
第18回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	千葉流古民家再生術	8
ホキ美術館	3	日本大学工学部船橋キャンパス 新サークル棟	9
幕張インターナショナルスクール	4	南房総の家	9
竹内医院	5	さんぶの森交流センター あららぎ館	10
いすみ市立岬中学校	6	千葉県建築文化賞の選考の基準	10

第18回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募108点から9点入賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第18回千葉県建築文化賞は平成23年6月の委員会で募集要領を定め、7月上旬から9月中旬まで応募を受け付け、総数108点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より37点増加した。東日本大震災では千葉県も大きな被害を受け、多くの方々が復旧に携わられているが、その多忙をおして建築文化向上のためにご協力いただいたことを深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門3点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募されている場合、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、建築文化賞6点、建築文化奨励賞3点を表彰候補作品として決定した。今回の表彰作品には比較的規模の小さな建築物が多く、住宅も3件含まれている。結果的に、規模の小さなものや住宅を積極的に評価したいという昨年度の宿題に応えることができた。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観上優れた建築物		73	5	2	2
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		15	3	1	1
環境に配慮した建築物		20	3	3	—
合計		108	11	6	3

(総 評)

景観上優れた建築物

景観部門への応募は73点で、昨年度を24点上回った。今回は教育・文化施設と住宅に佳作が多かった。また、街並みには4点の応募があったが、残念ながら授賞に至らなかった。

建築文化賞の「ホキ美術館」は、昭和の森公園に隣接する住宅地の一角に位置し、チューブ状のボックスが空中に跳ね出すダイナミックな形態をとりながら、スケールを抑え、周囲の環境と調和した快適な美術鑑賞の場をつくり出している点が高く評価された。

「幕張インターナショナルスクール」は木造平屋の学校であり、プライバシーを守りつつ景観への配慮を感じさせる外観、大小の空間を組み合わせる敷地や教室群を分節した配置計画、木造の伸びやかさを活かした屋内空間など、全体にきめ細かな配慮が行き届いている。

奨励賞の「日本大学理工学部船橋キャンパス新サークル棟」は、ハイサイドライトを持つユニットを組み合わせる明るいシンプルな建物とし、近隣住宅地からの眺めにも配慮しており、「南房総の家」は、白いスラブと大きなガラス面で構成される端正な形態が、前面に広がる海の眺望に溶け込みつつ添景として際だっている。

ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は14点であり、昨年より7点多かった。福祉施設、商業施設、住宅などの応募もあったが、今回は診療所と集会所の授賞となった。

建築文化賞の「竹内医院」は、表通りと駐車場からの動線を分離し、両者にバリアフリーのアプローチを設けている。また、内部には明るい吹き抜けの回遊式廊下がめぐり、来院者に快適な分かりやすい環境を提供している点が高く評価された。

奨励賞の「山武の森交流センターあらざ館」は、市役所出張所を併設した複合コミュニティ施設であり、多人数が安心して快適に利用できるように配慮されている。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は21点であり、昨年より6点多かった。今回は学校と住宅に見るべき作品が多く、その中から次の3点が建築文化賞となった。

「いすみ市立岬中学校」は、太陽熱集熱システム、連続スリット型トップライト、電動式ハイサイドライトなどにより、晴天率が高く、風光の安定した地域性を活かしたエコ・スクールを実現している点が高く評価された。

「Villa99 I期(OMOYA)」は、九十九里の農家を建て替えた住宅であり、庇・縁側・続間など、伝統的民家の空間要素を取り入れており、夏は浜風、冬は暖かな日差しを取り込み、冷暖房に頼らない快適な住まいを実現している。

「千葉流古民家再生術」は、重厚な柱・梁を活かし、居間と土間を南北に風の抜ける開放的な間取りとしつつ、プライベートな部分を大壁の現代的空間として、若い家族のライフスタイルに合わせた古民家再生を実現している。

建築文化賞

景観上優れた建築物

発見する喜びを誘う創造的空間

ホキ美術館

建築主：株式会社ホキ美術館

設計：株式会社日建設計

施工：株式会社大林組

所在地：千葉市緑区あすみが丘東3-15



鋼板構造のギャラリーが30mのキャンチレバーで浮遊する(東側外観)

(撮影/野田 東徳)

個人美術館として、出色の出来栄である。全体構成、空間配置、ボリュームの分節化、スケール感、ディテールの詰め、そのどれをとっても第一級であることに異を唱える人は少ないであろう。使用された素材の対比と連携が、これほどまでに大胆且つ穏やかな内外空間の中に統合された例を他にあまり知らない。

内部に展開する思いの外おらかな展示空間は、外部からは伺いしれない構造と設備の仕組みや、細部の優しい収まりと仕上げに支えられ、アプローチで抱く予感を心地よく裏切ってくれる。とことん抽象化されたジオメトリーの重なり合いが、優雅な曲線で訪問者を誘う。そして、写実主義のみに絞り込まれた超絶技巧の作品群と、意外な対話を醸し出す。企画、設計、建設過程で深くのめり込んだに違いない関係者の思いの幸せな重なり合いを感じ取ることさえできる。今や、各地から数多の訪問者を数え、その努力に報いている。

議論の余地があるとすれば、この美しい建築と、公園に近接する郊外

の戸建住宅地という周辺環境との関係性に集約されるだろう。この立地条件は、やはり美術館のありように影響を与えている。オーナーからの強い要望であった周辺住宅群にスケール感をなじませる配慮は是としよう。だが、この建築の顔である最もユニークな景観は入口側の背後に隠され、その下部に地下へと向かう搬入路がやや唐突に覗く。その周辺に乱雑に置かれた職員の車群は内部のカフェテリアからも、外部からもやはり目障りであった。この稀有な建築が程よく熟成するためにも、運用の改善が望まれる。

(岩村 和夫)



ギャラリー内観



西側鳥瞰

(撮影/藤井 浩司)

建築主：学校法人幕張インターナショナルスクール
 設計：株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
 施工：株式会社畔蒜工務店
 所在地：千葉市美浜区若葉3-2-9

設えの構想力を引き出すタフな空間

幕張インターナショナルスクール



おおらかに配置された大小様々な内外の領域

(写真提供/ダイムワカイ)

1.5ha弱の敷地に、幼稚園+管理部門、小学校低学年、小学校高学年の3つの塊が連なっている。低学年の各室には中庭から入る。高学年の各室はメディアセンターと直結している。低学年ユニットと高学年ユニットのヒンジになっているのが多目的ホールだ。複数の大きな空間の連鎖がそのまま主動線になっていて、小さな空間へと分かれていく構成が明解だ。逆に、各室から大きな空間に出てきて集まると違ったアクティビティが生まれる。英語を母語とする文化圏の教員たちは、子どもたちの作品などを駆使して、空間の設えを奔放に競っている。竣工当時はがらんとした大空間だったメディアセンターは、いい感じにコンテンツが充実してきた。外国人教員たちの手になる日本庭園も出現した。設計時点では想定外だった。それでも建築自体のコンセプトが霞むどころかかえって浮き彫りになるタフな空間がいい。学校のなかは、インプロビゼーションに溢れ、あたかも街の縮図のようで楽しい。

が、一步、学校の外に出ると、そこ

は幕張新都心の文教地区で、様々な類似機能施設が相互に関係なく並んでいる。歩いて帰宅する子もいるが、多くはスクールバスを利用している。「英語で学ぶ」特殊な学校のため通学圏はかなり広い。校門の前には、マイカーの長い列が子どもを待ち構えている。習い事や塾へとハシゴする子らも少なくないという。

隣接する幕張パティオスー帯には、オープンスクールの旗手となった打瀬小学校がある。10年以上経った今、オープンプランの「次」を担う学校建築として、教室を開くにとどまらず、街を、社会を、オープンに変える力を、本スクールの建物に期待したい。

(岡部明子)



調べ学習などに使える学校全体のリビング。天井から下がる大きな照明は居場所作りのきっかけとなる。



中庭の様子。内外一体的に利用できる庇下の縁側のような空間。

(撮影/上田 宏)

建築文化賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

建築主：竹内弘

設計：空間研究所

施工：株式会社佐藤秀

所在地：富津市大堀2丁目14-15

乳児からお年寄りまで地域住民の健康を預かる

竹内医院



外観 住宅街の街並みに同行する木造2階建てのスケール

竹内医院は、初代院長が大正時代より地域住民の健康を第一に考え高い志を持って、この地に医院を開業、診療にあたってきたという。長年親しまれてきた医院を、近年の医療技術の向上に追随し最新機器を設備し新しい医療サービスを提供すべく、近接した当地に移転新築したものである。木造2階建て、延べ面積491.06㎡。

住宅の建ち並ぶ街並みに溶け込むように、建物の裏に駐車場を配置して、歩いて来院する人と車での来院者を分離、2方向からの入口が設けられ、安全が確保されている。

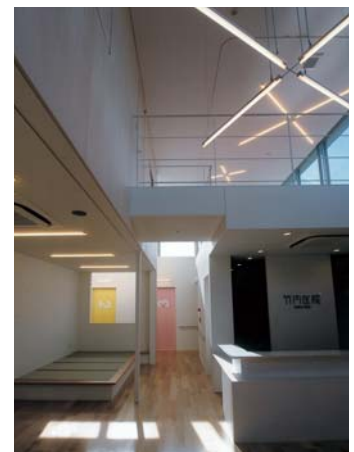
ゆったりとしたスロープで導かれて入口を入ると、吹き抜けのある明るく暖かな雰囲気のある待合室。誰もが快適に待つことができるようにと細やかに配慮されている。感染症で来院の人のためには入口から分離された待合室、住宅のようなスケールの小上がりのあるキッズコーナーと、さりげなく設けられた授乳室の位置にも優しさが感じられてうれしい。複数の診察室と様々な検査室は行き止まりのない明るい回遊式廊下で繋がり、ドアの色とわかりやすい美しいサインが標されている。

て、多くの機能を持つ院内でも、どこにいても誰もが自分の居場所が確認できて安心である。様々な障害への対応が残るものの、体調が悪いときは勿論のこと、予防接種などの予防医療、乳児検診・がん検診でも、医療の場に出向くことには緊張を強いられるものであるが、医療を「サービス」として提供しようという医院の姿勢が空間全体から感じられ、心が解き放される誰にも優しいユニバーサルデザインとして評価したい。

(夏目幸子)



メインアプローチ。デザインされたスロープで機能性とデザイン性を融合。



遊び心のある診察室のドア。ハイサイドライトでくまなく明るい院内。(撮影/新 良太)

建築主：いすみ市
 設計：株式会社日本設計
 施工：新日本建設株式会社
 所在地：いすみ市岬町椎木1370番地

地域風土を活かしたエコ・スクール

いすみ市立岬中学校



片流屋根と熱負荷を考慮し限定した開口部、集熱効果を高める色彩が特徴的な東側外観

外房の温暖な気候と自然豊かな環境に恵まれた、生徒数353人の中学校である。学校建物はRC造の箱型の建物のイメージがあるが、最近はデザイン・景観・環境に配慮した建物が多く建てられるようになってきた。

この建物は温暖な気候を活かし「太陽熱」「太陽光」「風」に着目し、自然エネルギーを利用した学校建物である。建物には自然環境負荷の低減、ランニングコストの低減を最大の目標とし、空調、採光に採用している。傾斜のある金属屋根に設けた空気層の空気を使い、太陽熱を活用する給排気システムを導入し、夏季は太陽熱で温まった屋根裏空気を排出することで換気を行い熱負荷を低減し、夜間に冷えた空気を教室に取り込んでいる。冬季は太陽熱で温まった屋根裏空気を教室に取り込み暖房効果を高めている。このシステムによって年間使用熱量の約40%を節減する計画である。建物中央にある2つの大きなホールには、スリット型トップライトを連続して配置しており、昼間の人工照明は必要ない。直射光を抑制し、拡散光とすることでホール内は屋

間曇天時でも平均照度300ルクスを確保できる計画である。建物は東西に長い形状になっており、教室は2階の南側に並んだ設計で、南北方向に吹く、安定した風が多いことを利用し、それらの側に大きな窓を設け風が通り抜ける構成となっている。いすみ地域のイメージを感じる色彩計画としている外装の色には濃緑色の金属板で統一しており、周囲の環境と違和感はない。自然エネルギーの熱・光・風を有効に取り入れた環境にやさしい建築物として、メンテナンスフリーが基本的な考えの建物である。

(青柳英俊)



ソーラー集熱パネル・スリット型連続トップライト・換気塔・ライトシェルフ(整流板)・バルコニー・庇・落葉樹が設置された環境装置をデザインに取込んだ南側外観。

自然通風・自然採光・吸音を考慮し、学年が一同に集まることのできる多目的ホール。

(撮影/日暮 雄一)

建築文化賞

環境に配慮した建築物

地域の人と共に暮らす快適なすまい

Villa99 I期 (OMOYA)

建築主：鈴木敬一

設計：鈴木隆+更田章司

+ (株) ARKプランニング

施工：(株) ARKプランニング

所在地：山武市下横地



南北の引戸を全開にすることで室内外が一体化する(南側外観アプローチより見る)

(撮影/鈴木 隆)

「Villa99」は九十九里浜にほど近い農村小集落内の敷地とその周囲の計画であり、「OMOYA」は木造平屋建30坪の専用住宅のI期計画である。定年退職後に建主夫婦は生家であるこの地に戻り、友人達や地域と暮らすことを選択した。

「OMOYA」は「借景・庇・縁側・続間・打水」といった日本伝統民家の空間要素を現代的に再構築しているという。夏冬共に冷暖房に頼らない工夫が随所に施される。

平面計画は南北に開口部を有する東西に続間のある単純な形状で南側は大庇を設け、夏の日射を防ぎ浜からの風を通す。大庇の下は打水の蒸散効果により冷やされた空気を室内に取り込む。中間期は南北面建具を全開放し、内外の境界のない生活が実現できる。実際全開放した部屋で不都合はないのか。建主夫婦は生活に満足し自然の恩恵を享受し気持ちよく生活しているという。そして冬は直射光を室内まで取り込み、床下に蓄熱できる構造としている。加えて細長い葉の密集するイヌマキの生垣は地域特有の冬の西風を防ぐそうだ。

建物の象徴は中央のLDKホールである。南側の

縁側は近隣住人との交流の場、友人が集う場である。生垣は家の外壁の一部となり、建物と生垣で挟まれた庭はインテリア空間として最大限に拡張されて視界を広げる。

建主夫婦の第2の人生のイメージが明確に表現され、設計は細部まで検討し、丁寧に作り上げていると感じた。それは押しつけではなく、自然の恩恵と人々の温かさを緩やかに感じられる住居となっている。「Villa99 II期・III期」は健康食カフェやゲストハウスの計画が視野にあるという。その時「OMOYA」と建主夫婦はどのように変化しているのだろうか。

(藤本 香)



墨入モルタル表面に張られた水幕(庇下内観)



東西方向に引戸を介して一体化する空間

(撮影/野田 東徳)

建築主：川添賢二
 設計：井川建築設計事務所
 施工：共新建設株式会社
 所在地：富里市中沢1161

先代への思いが伝わる古民家再生

千葉流古民家再生術



梁組みを見せた開放的なリビング空間

文化庁は補助事業として「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」を実施している。千葉県建築士会でも、平成22年度から毎年30人程度の研修生を会員の中から募集し、一期、3年計画で、経年50年以上の民家を中心に「歴史的建造物の保全・活用に係る掘りおこし事業」の担い手の育成をしている。県内には茅葺屋根にトタンをかぶせ、使用している民家は多く残されている。太い松丸太の小屋組み、40cm以上ある、樺や黒松材の差し鴨居は地元産の材料を使用したものである。残念ながら今はそのような大きな材料がとれる樹木は山に無い。

応募建物であるが、築90年の住宅改修工事である。改修前は8帖の土間、10帖の和室2室、8帖の和室3室にL字形の広縁がついた大きな農家住宅である。屋根は瓦葺きで軒の出も大きく太い化粧垂木を使用している。改修後はL字形の広縁を取り払い、DK15帖、リビング、多目的室、寝室と、床は全て板張りの部屋に造り変えている。しかし、壁は真壁を残し、白色の塗装仕上げで古民家の太い柱、いく重にもかさなる丸太梁の味を活かしている。広い土間

は一部を残し、表の出入口から裏側の庭に通抜けられるように設計され、各部屋と共に通気性を考慮している。古民家の改修は耐震補強が問題であるが、基礎工事から改修し、開口部の一部を耐震壁にすることで解決した。浴室・トイレなどの水廻りは、現代のライフスタイルに住まい手の要望を合わせ機能的なスペースにしてある。古民家を単に改修するだけでなく、板戸や、力強い骨組みを美しい資源として再生してあることに、住まい手の先代への感謝の思いが伝わってきた。（青柳英俊）



外観全景



キッチンより新ストーブのあるリビングを見る。

(撮影/石井 雅義)

建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

まちなみとしての新サークル棟の挑戦

日本大学理工学部 船橋キャンパス新サークル棟

日本大学理工学部船橋キャンパス内に建つ新サークル棟は約50のサークルが集まり活動をおこなっている。キャンパスの外周道路に面し住宅地が背景にある立地条件から、周囲との調和を図れるよう圧迫感のない平屋建てとし、外観もコストとのバランスを計りながら断熱材を芯材とした耐火金属サンドイッチパネルとガラスで表現している。

平面計画はグラウンドやテニスコート、武道場の中心に位置し、7方向からアクセスできるようになっている。一個室は構造スパンである3.8m×3.2mをモジュールとし、57.0m×25.6mの平面に個室とミーティング室、トイレ等と外部扱いの通路を配しているがクランクした通路の先にグラウンドが見えたり、サークルの様子が垣間見られたりとサークル同士のコミュニケーションも図れるようになったそうだ。

断面計画は通路の天井高約2.4mに対し、個室の天井高を3.75mとすることで高窓から採光と換気がとれるように工夫している。高窓から漏れる光は学生達の活動の気配を窓越しに感じられ、周辺のまちへのアプローチとなる。

鉄骨造の建物として将来のメンテナンスにはやや不安が残るものの、学生の為の建物が本来の活動の意義を超えて、学生の活動の幅を広げたと見える。
(藤本 香)



上空から見た建物全景



ミーティングルーム付近内観

(撮影/中川 敦玲)

9

建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

海を一望する週末ライフの舞台

南房総の家

ソファに身を沈め、穏やかな内房の海を眺めて、1日過ごせる別宅があったら。階上のベッドに横たわると緑深い山が迫っている。夕日に染まるジャクジーで身も心もリラックス・・・あこがれが現実となった家だ。真っ白な1枚の紙に切り込みを入れ折り曲げた造形が潔い。それが一面の青芝の上にポンと置かれている。フォトジェニックなセカンドハウスを、熟年夫婦がアクティブに楽しんでおられた。奥様がここで、女友達と週末を過ごされることもよくあるという。

南房総の沿岸は、富士山が大きく見える冬には風が強く、防風・防砂の松林で縁取られてきた。先人たちがこつこつとつくりあげてきた景観だ。鋸山の南のこの辺りも松林に守られて人びとは暮らしてきた。この家の建つ敷地は、松林を断ち切ってつくられた町営プール跡地だという。これほど余裕のある建物であれば、よそ者として特権的な土地を占有するせめてものお返しに、往年の松林の連続性を少しでも紡ぎ直すやさしさもあつたのではないかとはいえ、大判ガラス越しのスカッとした眺望とはどうにも共存しない。ここはカリフォルニアか地中海の富豪の隠れ家かと思ふほど、確かに美しく捨てがたい。
(岡部 明子)

建築主：T氏

設計：株式会社仲亀清進建築事務所

施工：株式会社屋代工務店

所在地：安房郡



南西から建物を見る



バスルームから海を見る

建築文化奨励賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

協働と交流のまちづくりの拠点として

さんぶの森交流センターあららぎ館

4町村合併により誕生した新しいまち「山武市」に生まれた総合交流センター。多くの人々が自由に集い、さまざまな人との交流をうみ、地域の賑わいを作り出すことを目指している。地域の行政窓口となる山武出張所と市民のコミュニティー活動を支援する活動スペースからなる交流センター棟、地産の山武杉のバイオマス利用の促進を目的としたバイオマス体験棟、屋外活動のためのジャイアントシェルター棟とで構成されている。

山武杉の美しい森を背にした広々とした敷地に建つ平屋建ての交流センター棟は、玄関前に大きな屋根を持つ車寄せを設け、コミュニティバスや乗り合いタクシーで訪れる人々を雨や風から守り迎え入れる配慮がされている。多くの機能を持つ交流棟は、ホールを中心として左手に山武出張所、右手に市民交流サロンと初めての来訪者にもわかりやすくシンプルな平面計画となっている。可動間仕切りを多用した市民交流サロンは、中央のホールにも連続、使用目的によってフレキシブルに対応可能で、今後の多様な市民活動に大いに役立つであろう。

バイオマス体験棟は、近隣小学校の総合学習や環境教育の場としても活用されているという。多目的広場、ジャイアントシェルター棟も一体となってセンター全体に賑わいが見られる時に再度訪ねたい。

(夏目 幸子)

建築主：山武市

設計：株式会社千都建築設計事務所

施工：古谷建設株式会社

所在地：山武市埴谷1884番地1



外観全景



ホールより多目的室

選考の基準

1. 千葉県内において完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物(群)でこの表彰の趣旨に沿っているもの。
2. 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物(群)であり次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺的环境に十分配慮され、建築物(群)と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②概ね3年以上の創意工夫に富んだ継続的な景観づくり活動により、上記①の維持・向上が実現できているもの。
 - ③だれもが、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、日常生活や社会への参加が容易にできるような環境整備がされているもの。
 - ④環境と共生する優れた社会資産を形成するために、エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して、健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
3. 建築基準法などの諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。

千葉県建築文化賞選考委員会

委員長 北原 理雄：千葉大学大学院教授

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学大学院教授

委員 青柳 英俊：社団法人千葉県建築士会会長

委員 岡部 明子：千葉大学大学院准教授

委員 夏目 幸子：建築家・NPO 住まい・まち研究会理事長

委員 藤本 香：建築士・千葉大学非常勤講師

【敬称略 委員は五十音順】

第18回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。応募総数108点の中から6点が千葉県建築文化賞、3点が千葉県建築文化奨励賞に選定されましたが、応募作品はすべて優れた特徴をもった質の高い作品でした。

作品に携われた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。

(千葉県建築文化賞選考委員会事務局)

千葉県建築文化賞の実績(応募点数・受賞作品数)一覧

回数	年度	応募総数	建築文化賞				建築文化奨励賞
			景観上優れた	ユニバーサルデザインに配慮	環境に配慮	計	
1	H6	192	3	3	—	6	—
2	H7	73	3	3	—	6	—
3	H8	83	3	2	—	5	4
4	H9	87	4	1	—	5	5
5	H10	106	2	0	2	4	5
6	H11	101	2	2	2	6	3
7	H12	63	3	1	2	6	4
8	H13	88	2	2	2	6	2
9	H14	71	2	1	2	5	4
10	H15	79	3	2	0	5	4
11	H16	63	1	2	1	4	3
12	H17	92	3	1	2	6	1
13	H18	71	3	0	1	4	4
14	H19	53	1	1	1	3	5
15	H20	57	3	1	1	5	1
16	H21	68	2	1	1	4	4
17	H22	71	2	0	2	4	3
18	H23	108	2	1	3	6	3
1~18	計	1,526	44	24	22	90	55

※1「建築文化奨励賞」は、第3回に創設。 ※2「環境に配慮した建築物の部」は、第5回に創設。

※3「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」は、第12回に創設。(第11回までは、「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」)

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。その間、県下の広い地域にわたり、90の建築物が受賞され、それぞれの地域に根付いています。第19回の作品募集は、平成24年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。

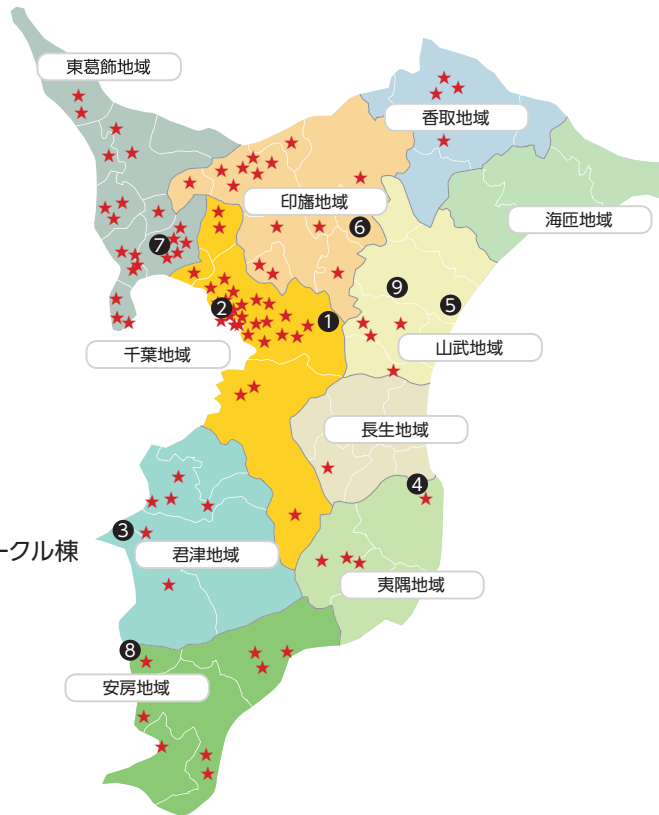
受賞作品の位置

第18回千葉県建築文化賞

- ① ホキ美術館
- ② 幕張インターナショナルスクール
- ③ 竹内医院
- ④ いすみ市立岬中学校
- ⑤ Villa99 I期
- ⑥ 千葉流古民家再生術

第18回千葉県建築文化奨励賞

- ⑦ 日本大学理工学部船橋キャンパス新サークル棟
- ⑧ 南房総の家
- ⑨ 山武の森交流センター あららぎ館



建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数	
千葉市	22
習志野市	1
八千代市	2
市原市	3
市川市	4
船橋市	5
松戸市	3
野田市	2
柏市	2
流山市	1
鎌ヶ谷市	1
浦安市	3
佐倉市	1
八街市	1
四街道市	2
印西市	6
白井市	1
栄町	1
成田市	1
富里市	1
香取市	4
山武市	1
東金市	3
大網白里町	1
大多喜町	2
いすみ市	2
鴨川市	3
南房総市	3
館山市	1
鋸南町	1
木更津市	4
君津市	1
富津市	1
計	90

お問い合わせ先

千葉県県土整備部都市整備局建築指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 TEL.043(223)3181 FAX.043(225)0913

社団法人 千葉県建築士会

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5 TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん